

05

統計から見る熱中症

そうだ、かけるくん。
現場を見る前に近年の熱中症発生状況について話しておこうか。

守山さん



ぜひお願いします！なんとなく真夏の屋外でのスポーツやイベント時に熱中症になる人が多くなるような印象がありますが...

鎌倉 かけるくん



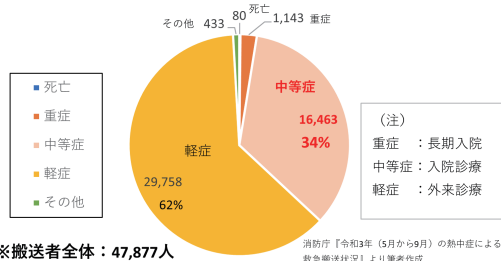
月別の熱中症による緊急搬送推移によると、やはり7～8月の発生が非常に多い。でも5月からすでに緊急搬送される数は増え始めていて、9月までは油断できないということが統計から見て取れるよ。さらに、搬送された約3割以上は入院が必要なほど重い症状だったということだ。

そんなに...これは鉄鋼や溶接作業などの熱源がある仕事に限らず、様々な場所で起こってしまっているということですよね？



2021年熱中症による救急搬送状況

初診時における傷病程度別人数



その通り。レジャーやスポーツなども含むあらゆる場面で熱中症のリスクがあるということを頭に入れておかないとね。

一人一人が熱中症への理解を深め、対策することで発生率を大きく減らすことができます。

次回も引き続き熱中症による死傷災害について詳しく見ていきましょう！

別紙に拡大資料

解説

国内の熱中症発症状況についてみてみましょう。

2021年10月に消防庁より発表された『令和3年（5月から9月）の熱中症による救急搬送状況』によると、2021年5月から9月までに救急搬送された人は47,877人に上ります（うち死亡者は80人）。この数字は決して2021年だけが特別に多い数字ではなく、消防庁の統計では、2015年～2021年までの7年間で平均6万人以上の人々が救急搬送されています。

また、注目すべきは搬送された人の1/3以上が中等症（入院診療程度、前出の熱中症分類2015の「Ⅲ度」相当）より重い症状であったということです。

熱中症は、早期に発見し適切な手当てを行えば、ほとんどの場合回復します。

にもかかわらず、例年5万人以上が熱中症で救急搬送され、その1/3以上が入院を余儀なくされているという事実は、熱中症を早期に自覚（発見）し、適切な処置を行うことがいかに難しいか、ということをお話しています。少しでも熱中症を疑うような症状が現れたなら、躊躇なく涼しいところで体を休め、十分な水分補給するといった処置を行うようにしなければなりません。

<職場におこる熱中症>

熱中症は、レジャー、スポーツのほか、屋内外のさまざまなシーンで発症します。職場も例外ではありません。とくに建設、製造、運輸などの現場では、夏の酷暑環境にさらされながら作業したり、熱源を扱う作業で、現場そのものが暑かったりと、過酷な環境で長時間し仕事をするのも珍しいことではありません。常に熱中症のリスクと隣り合わせにあるといっても過言ではありません。

厚生労働省では、職場の熱中症を予防する目的で、ポータルサイトの公開やキャンペーンを実施しています（※）。その公開されている資料の中に、「令和3年職場における熱中症による死傷災害の発生状況」（令和4年1月14日時点速報値）があり、令和3年（2021年）までの10年間の職場における熱中症災害発生状況が紹介されています。それによりますと、「死亡者および休業4日以上業務上疾病者数」は2021年だけで547人（うち死亡者数20人）にのぼります。また、過去5年間の平均は、死傷者数で811人、死亡者数で21人となっています。死亡者数でみると、実に国内全体死亡者の1/4にあたる方が就業時に亡くなっているのです。

熱中症は予防することができる病気（災害）なだけに、就業時の死傷災害は何としてもなくしていかなければなりません。そのためには、作業者、管理者、事業者が一丸となって「熱中症ゼロ」にむけてしっかりと取り組む必要があります。

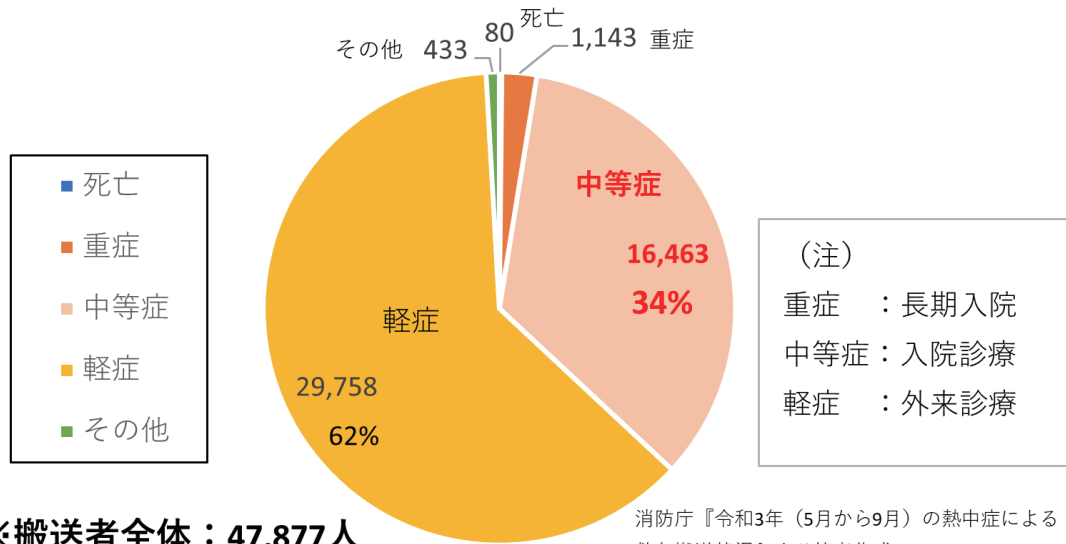


POINT!!

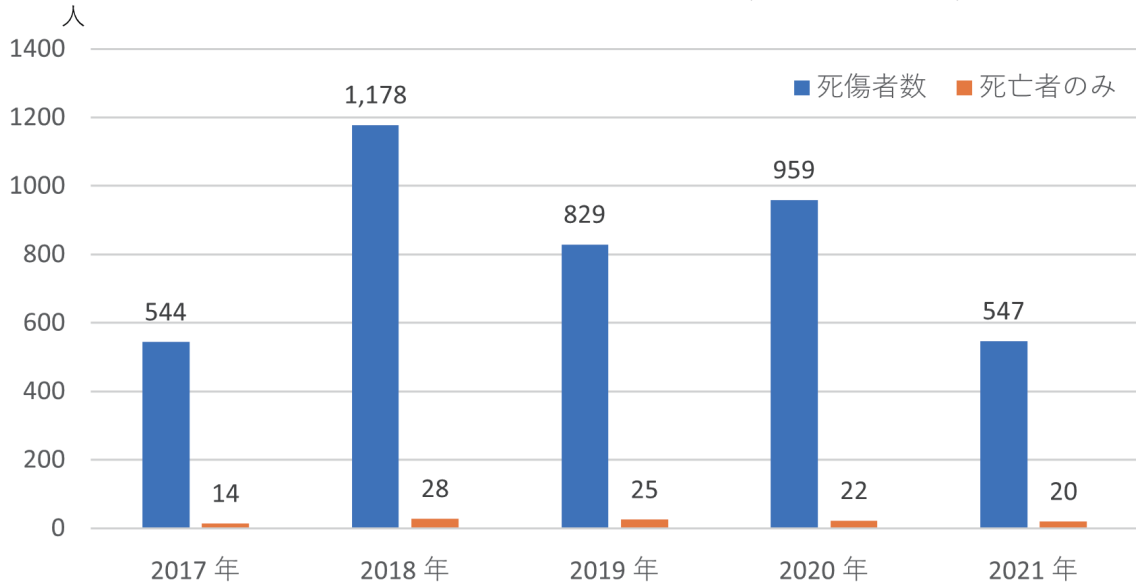
毎年数万人の人が救急搬送される熱中症。
特に職場では、作業空間環境の整備はもちろんのこと、
異変を感じた作業者が休みを取りやすくするための仕組みを作ることも重要です。

2021年熱中症による救急搬送状況

初診時における傷病程度別人数



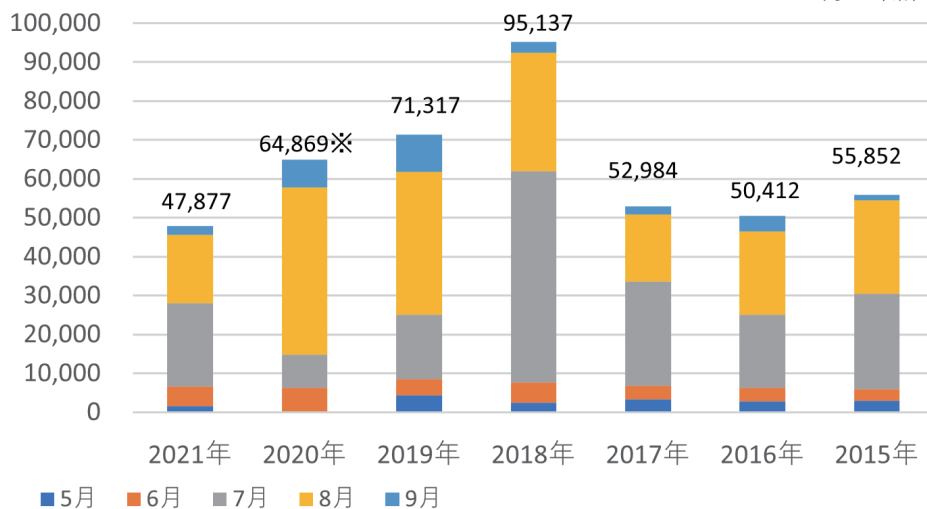
職場における熱中症による死傷者数の推移（2017年～2021年）



※厚生労働省「令和3年 職場における熱中症による死傷災害の発生状況（令和4年1月14日時点速報値）より抜粋して筆者作成

救急搬送人員の年別推移 （2015年～2021年）

※2020年は6月～9月の集計



消防庁『令和3年（5月から9月）の熱中症による救急搬送状況』より筆者作成